

和やかな雰囲気で日頃の活動を発表

平成29年度 公民館まつり



2月25日(日)ゆめあるて大ホール



第 685 号

発行人●豊丘村公民館
館長 原 国人
編集人●長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所●龍共印刷株式会社

私たちの村

(3月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,356人
女 3,405人
総人口 6,761人
世帯数 2,144戸

第3回 公民館まつり

発表者も観覧者も一体となって

とよおかまつりや文化祭作品展を経て「公民館まつり」の開催が明確になり、参加グループの代表の方を中心に打ち合わせを重ね、手作りのまつりを開催することができました。
手作りランチをいただき、スポーツ表彰に続き、発表に合わせた歌い、踊り、発表者も観覧者も一体となって、楽しいまつりとなりました。

平成二十九年度 公民館まつり

実行委員長 壬生 一

昨年のとよおかまつりの後、公民館登録グループから「以前のような芸能発表会がしたい」「自分達でゆつくり楽しみたい」等の声が上がりました。それだけに工夫され、ゆめあるてのステージで落ち着いて見聞きできるよう、今回の公民館まつりを計画しました。ただし、このまつりは決してとよおかまつりに対抗するものではなく、開催時期や時間等の都合で発表できなかったグループや、日頃の成果をより多くみなさんに見てもらいたいグループのために開催されたことを申し添えます。今回、ステージ発表に十、

過ごしました。いくつかの良い点・改善したい点があるかと思いますが、これらをもとに次に繋げていければと思います。当日の総参加者数約百三十名。スタッフの皆さんに改めて感謝申し上げます。

パン作り教室も 参加

副実行委員長 北林 美はる

この日の作り手は六人。朝から竹下先生の指示のもと、十一時の完成を目途に、九十人分の昼食を分担して作り始めました。



提供された昼食

教室を続けてきて良かったと思います。
お味の方はいかがだったでしょうか？かき玉汁など塩分控えめで、まろやかなやさしい味になっていたのではないのでしょうか。

公民館まつりによってお料理に関わるクラブも発表の場を設けてくれて、食べた人たちに「おいしい」と言ってもらえたことは、とてもやりがいがありました。これを機会に、料理を覚えていた方も多勢いたのではないのでしょうか。

段丘

今年の冬も寒かった。室内にもかかわらず台所の蛇口が凍った時があり、困った話を聞きました。

そんな中、お隣の韓国ではとても熱い戦いが行われていました。平昌オリンピックです。寒かったので外出せず、テレビに、かじりついていていた方も多勢いたのではないのでしょうか。

日本は、冬季オリンピック史上最高十三個メダルを獲得しました。とても素晴らしいことです。特にフィギュアスケートの羽生選手には、世界中が注目していました。けがの為思うように練習できず、本番一発勝負という緊張感の中での金メダル。私もテレビで見えていて、ただただ「すごい!! 感動」の一言。一緒に、がんばってくれた右足首を、さすっていた姿が、とても印象的でした。

プーさんが大好きな彼には、滑り終わると、いつも大量にプーさんが投げ込まれます。特に今回はフアンの数に比例して、いつもより多く山の様になっていました。そのプーさんを羽生選手は、韓国の子供達に贈ったそうです。今風に言うなら、羽生君、神対応ってところでしょうか。

今回のオリンピックは、選手同志の友情等の相手を想う気持ちが見られ、素晴らしいオリンピックでした。感動をありがとう。

(原 明美)

新出史料「河野村文書」のロマン

天保飢饉期の暮らしを知る

立正大学の先生が河野村の名主家文書を偶然手に入れ、学生達と「河野村研究会」を立ち上げて解説し、目録や翻刻を添えた研究冊子を刊行したことは、本紙でも何度か掲載してきた。その貴重な史料からわかる当時の生活等についての講演会が、豊丘史学会の総会にあわせて行われた。

天保飢饉期の河野村 新出史料「河野村文書」 を手掛かりとして

豊丘史学会 水野正義

二月十八日、豊丘史学会総会に於いて、講師の立正大学文学部助教・藤井明広先生より、天保飢饉期の河野村についてご講演をいた

阿島に陣屋を構えていた天保期、夏は低温・雨が多く、梅雨明けも遅れ、更に台風による大雨などが加わって大凶作となった。

困窮を訴える住民が河野村でも数多く出た。村では五人組を中心に扶助したが対応しきれず、名主を経由して知久家お代官に扶助を願った。その他、河野村の対応として相互扶助を行っている。具体的には、無尽講・低金利での貸付・有力者からの合力(米や金銭を与えての貧窮救助)・新



新出史料の「河野村文書」

河野村文書にも、天保七年・片桐久治郎宅前に捨て子(二歳)があった事、八年に若部七左衛門家の馬が行方不明となるが、濃州「無宿」の男と判明した等、当時の社会情勢の一端垣間見る事が出来た。

親子で一緒に学べる講座 親子セミナー とよおかの 伝統行事食を伝承

豊丘村女性団体連絡協議会（通称・女団連）では、親子で一緒に学べる講座「親子セミナー」を二月二十四日（土）に交流学習センターゆめあてで開き、行事食の伝承を目的に、ぼたもちなどを作った。

豊丘村女団連は村内の四つの女性団体で組織しており、女性の視点から明るく住みよい地域づくりを目指して、研修会や村長さんとしやべらまい会の他、今回のような親子セミナーを開催している。

今回は、十二家族三十四人という大勢の方が参加し、賑やかに料理教室を行った。豊丘村の行事食を伝承すると共に、講師を務めた女団連の会員とも交流を深める良い機会となった。

親子セミナー に参加して

北垣外
佐藤千香

「親から子へ伝えたい豊丘の行事」春のお彼岸を前に、ぼたもち等を親子で一緒につくろう！というプリントを子供が持つて来てくれて、すぐに家族みんなで参加しよう！と決めました。

献立は、ぼたもち、茶わん蒸し、ミニパフェでした。

まず、「ぼたもち」と「おはぎ」の違いについて説明して下さって、「ぼたもち」は、

牡丹の季節、春のお彼岸で、牡丹のイメージで丸く大きい形。

「おはぎは、萩の季節、萩のお彼岸で、萩のイメージで小ぶりで俵型に作る。

と聞いて、知らなかつたので、勉強になりました。

参加者は十二家族で、全員で三十四名

と、とても多い参加者でしたが、仲良く、楽しく調理

できました。

ぼたもち、茶わん蒸し、ミニ



春のお彼岸を前に「ぼたもち」作りを学ぶ

二パフェと作りましたが、茶わん蒸しを自宅で作る事がなかつたので、子供たちも興味があつたようです。

卵をといて裏ごししたり、とり肉、かまぼこ、長いも、しめじ、ぎんなん、みつ葉

同じ数ずつ入れる事を楽しんでお手伝いしてくれました。

最後の卵液を入れる時には、皆で上手に順番にできました。

最後に全員で「いただきます」をして食べました。

やはり自分たちで作った食事はおいしかったようで、ぼたもちを何回もおかわりしている子供も

いました。子供たちも「お家でも茶わん蒸し作つてね！」「とってもおいしいね！」と言って、おいしそう

に食べていました。次回もありましたら、またみんなで参加したいと思つていま

す。スタッフの皆さん。ありがとうございました。

ではないか。と思うのは、国内でも数か所しかない、自然が創り出した「河岸段丘地形」を体感できる場として演出したかどうか。

現在は樹木が生い茂り、漠然とした印象でしかありません。

大掛かりな事業にはなると思いますが、樹木の伐採を行い

段丘端に誘導できる遊歩道を整備し、道沿いには長い期間花を

楽しめるように数種類の「桜」を植樹すれば、

開通後には桜の花を愛でなが

リニアの庄

第19回

河岸段丘を 観光スポットに

林原 健治

身近な存在になってきたリニア。大鹿村から村の南端の位置になる小園地区と壬生沢地区の間にトンネル

の出口ができ、喬木村から飯田市上郷地区の間に高架

橋が架かり、上郷側にリニアの飯田駅が造られ、新幹

線車両が通過したり、停車する日が九年後には見られることになります。

現在は、トンネル工事や新幹線に電源を供給する変電所建設に向けた工事がJR東海や中部電力によって行われようとしています。

その進捗状況は、年数回開かれる村のリニア対策委員会に詳細にわたって報告されています。

こうした論議に臨んでいると、リニアの開通までにはいろいろな諸課題、諸問題を乗り越えていくために

時間と労力、多額な設備投資がかかることを痛感します。

私はリニアの工事に関する議論も必要だが、一方で、リニア開通後、如何に豊丘村に多くの人々を誘客するかという話題が上がつてほしいと思つています。

近隣では誘導の仕掛けを始めていると聞きます。人の流れは何もないところに発生しません。

日本で高印象のトップは何と言っても富士山ですが、全国各地に名所は数多くあり、観光スポットにもなつて

います。そんなところと同じように豊丘村もできるの



高森町から見た豊丘村の河岸段丘

大切に使おう 「ゆめあて」

平成二十六年十一月に開館した交流学習センターゆめあてでは、「夢」とスベイン語の「art a（あるて）」芸術を組み合わせて名づけられました。

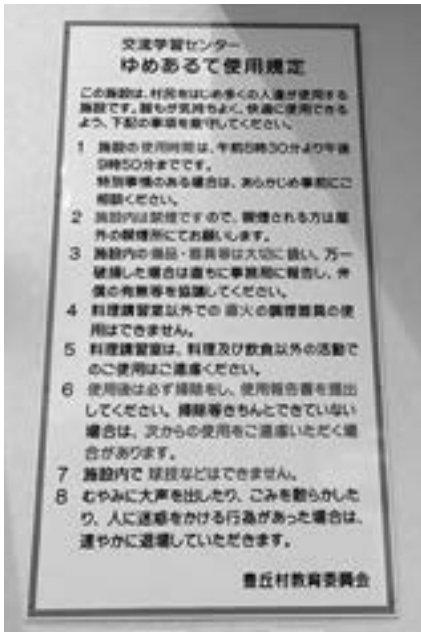
豊丘村の文化・芸術の拠点として、また人づくりや地域づくりの拠点として、公民館登録グループをはじめ、多くの村民の皆様にご利用いただいております。

施設は三年が経

ちましたが、土足使用とは思えないほど大変綺麗に使つていただいております。しかし、中にはお掃除等を忘れてしまう方や、共有スペースでのマナーが守れない方がいます。

誰もが気持ちよく快適に使用できるように、ホールに掲示した使用規定の確認を今一度お願いします。

豊丘村教育委員会



ゆめあてホールに掲示した使用規定

シリーズ「元氣な高齢者」④2 苦難を乗り越えた丈夫な身体に感謝

池野幸子さん
九十三歳

北村在住



高森町上市田の農家で七人きょうだいの六番目の子として大正十三年に生まれました。

男三人、女四人であつたが喧嘩をした記憶がない

ほど仲が良かった。家の回りに広い農地が有り、きょうだい全員が力を合わせて

家の手伝いを行なった。幸子さんが小学校五年生の時に、

病弱であつた父親が亡くなり、以後は年齢が一回り

離れていた長兄が父親代わりとして面倒を見てくれた。

中学校一年で学校を卒業し二年間ほど家で過ごした後、近所の友達と三人で京都の織物工場に働きに出た。

切つた。夫婦で力を合わせ

養蚕、田畑などの農作業を行なつたが、体力に不安の

あつたご主人の分まで働いた。天竜川の堤防作りでの

土方、家事の燃料用の薪集め、稲刈り時のハザ作り

（台風にも耐える頑丈さなど、男勝りの働き様であつた。ご主人は五十歳前後に

脳卒中で倒れ、右半身に麻痺が残るなどして約十年間

病床に臥していたが、六十三歳の若さで亡くなった。悲しみに暮れる間もなく、以

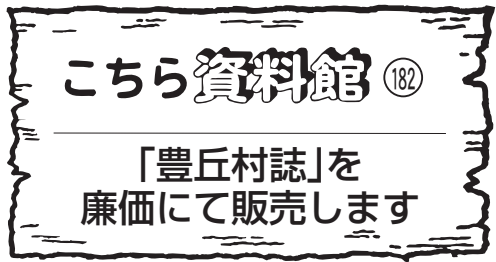
前にも増して懸命に働いた。四十歳代の後半に胃潰瘍で

手術したのが、唯一の入院歴であるという頑丈な体に感謝である。

現在きょうだいの中で健在なのは幸子さんだけなのは寂しい思いがあるが、長男家族との四人で穏やかに

暮らしており、また近くに住む次男家族とも良く顔を合わせるなど、ファミリーとして和やかな生活環境にいる幸せをしみじみ噛みしめている。

文責 桐崎 長一



「豊丘村誌」(上下二巻)は、昭和五〇年に合併二〇周年を記念して発刊されました。執筆は村在住の郷土史家であった武田彦左衛門・小澤万里・今村正次の三氏が担当し、村を挙げての協力体制で五年をかけて完成させたといわれています。

内容は、原始時代から昭和に至る一万余年の自然・政治・経済・文化の変遷が、流れとして割と平易に書か

れています。また、村内から提供された貴重な史料がふんだんに使われていて、自分の先祖につながる記述も散見できます。村誌は今を生きる私達のルーツに関わる本です。読む読まないにかかわらず、一家に一冊は置きたい本といえます。

さて、発刊当時全戸に配布した村誌ですが、その残り三百部程を現在資料館で保管しています。しかし、四

〇年余の歳月を経て、だいぶ劣化が進んでいます。そこで、一部(上下二巻)二千百円で販売することにしました。是非この機会に購入いただきたいと思います。特に、ここ数十年の間に豊丘に転入されたご家庭にはお勧めです。資料館またはゆめあて窓口にてご依頼ください。

なお、より身近な近々の歴史書として「公民館報縮



私はご縁があり、高校三年間、小平奈緒選手の担任をさせていただきました。奈緒が平昌オリンピックで主将をつとめ、ジンクスに負けずに銀メダルと金メダルを獲得し、更にはその言動で世界の人々に感動を与えたことは、周知の事実だと思っています。

当時の私にとってはスケートのことも世界を目指す選手の世界も未知のことであり、私が心掛けていたのは、



平昌オリンピックで小平奈緒選手を応援する奥田さん(右)

それぞれの金メダルを豊丘南小学校教頭 青森隆俊

日本中に感動を与えてくれた平昌オリンピック。小平奈緒選手を小学校一年生

九月一日は統計上、十八歳以下の子供の自殺が最も多い日だそう。そこで早速教育評論家の先生方のアドバイスを各新聞記事などに載っている。それぞれ

とアンケート調査など行う場合が多い。アンケート調査などで分かるんだったら簡単です。一人一人違うんです。学校や家庭で細かく観察していますか、人間の心は体中から発散していま

す。授業参観に参加したお父さん、授業の中で先生がある有名な人物の名前を間違えて指導していたのです。お父さんは家に帰ってそ

ないんだな」などと言いつらしたら先生に対する信頼は崩れます。ちよつとしたことで信頼を築いたり崩したりするものです。お互いちよつとした心配りをする

いつも通り下市場 奥田綾子

クラスを「ありのまま普通の女子高生として過ごせる居場所であるようにしよう、ということだけでした。

高校時代から奈緒を見てきて、最も素晴らしいと思うのは「ぶれていない」ことです。世界が奈緒を認めるようになり、奈緒に

自分の全てを表現する舞台と語っていましたが、奈緒の生き様をまさしく表現した舞台であったと言

小学校低学年の奈緒ちゃん、二人のお姉ちゃんと一緒にスケートをやっていた、ただあつて、すでにスケートは群を抜いてうまかつた

過ぎし日の体験 武田 寛

若かりし日、実際に体験した怖かった話、不思議に

その二 青白い火の玉 その三 魂の来訪

その三 魂の来訪

世界中を興奮の渦に巻き込み、多くの人達に感動を与えてくれた平昌オリンピック。日本では過去最高の、十三個というメダルを獲得した。茅野市出身の小平奈緒選手は、日本選手団の主将という大役を務め、スピードスケート五百mで金メダル、千mで銀メダルを獲得した。この快挙に心から拍手を送りたい。

なんと、その小平奈緒選手の小学校低学年の時と、高校の時に担任だったという恩師二人がこの豊丘村にいるのだ。より身近に感じたであろう小平選手への想いを書いていただいた。

わつていません。自分の滑りで人々に夢や希望を届けたという強い想い。周囲で支えてくれる人々への強い感謝の気持ち。人との出会いを大切にし、その人々から多くを吸収しようとする広い視野。自らが一つ一つ選んできた道への揺るぎ

の求める究極の滑りを、いつも通り次に滑る選手に敬意を払い、いつも通り大切な親友に声をかけ、いつも通り周囲の人々に感謝し。今回のオリンピックを、自分の全てを表現する舞台

から三年生まで担任した私は、人並み以上に興奮と感動を味わうことができた。五百メートルで金メダルを獲得した時には、涙しながら大声を上げてしまった。

『豊丘村民話集』より

その一 真夜中の狂女

それは大正二〇年前後、わたしがまだ二〇歳くらいの頃のことでした。河野に夜の会合があつて出席しての帰途。生暖かい春の臘月夜の真夜中に近い時刻で、黒谷線を急ぎ足で帰ってき

のをまとい、すねは丸出し、履物なども履いていないようでした。しかも髪はざんばらで後ろに垂らし、青白い顔の方にもかなり垂れ下がっておりまして。私は一瞬ぞつとしましたが、それでも元氣を出して「こんばんは」と声を掛けました。だが、先方は物も言わず通り過ぎ、私の顔を見てニツと笑いました。私は頭から冷水をかけられたように立ちすくんでしまいました。そしてその人が遠ざかるのを見て、一散に駒沢まで走り、人家の灯を見た時、やつと人心地がついたようでは



のを「いつも通り發揮できた」ことが、今回の金メダルや人間性の評価につながったのだと思います。

平昌オリンピックという大舞台で、いつも通り自分の求める究極の滑りをし

思つた話など三つ短くまとめてみました。これはいづれも潤色していない実話ばかりであります。

後で考えると、その時代はまだ狂人が野放しの時代でしたので、狂女であつたろうと思われま

気持で夢中でした。帰宅してから床についても、あのニツと笑つた乱髪の青白い顔が目に残り付いてなかなか眠れませんでした。

後で考えると、その時代はまだ狂人が野放しの時代でしたので、狂女であつたろうと思われま

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.172

ツチイナゴ(バッタ科)



今までに考えてもみなかった思いで三月六日を過ごした。それは信毎の「けさの一句」 「虫穴を出でてかなしび わかち合ふ」八幡城太郎

トンボ、ホソオオツネントンボもそうだったのか。ここに紹介したツチイナゴは二月二十七日に確認したもの。 テングチョウ・スジボソヤマキ

豊丘中学校旧校舎正面玄関



やつと桜の春がやってきた。校庭の桜は校舎建設のころ植樹したのである。今では樹影もみごとになり

たことに驚くばかりである。平成十七年の撮影で、正面玄関にいたっては現在の玄関と比べると大きさも見えないものだが、当時としては立派な建造物として有名だったのだらう。



川柳

〈豊丘川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「直」 福沢勝美 選

立ち直る勇気支えた農作業 安田 喜子

人生は通り直しの出来ぬ道 西元 峯子

真直ぐな道ばかり来て今迷う 小澤 凛

出荷者も客もニコニコ直売所 桃沢 健介

軸吟：実直に生きて清貧気にならず

▼課題「病」 互 選

病魔など懲らしめ三途渡るまい 原 美風

健康は一つ病は数知れず 福沢 勝美

乗り越えた病が人を強くする 林 桃子

世界中地球諸共病んでい 山本 義彦

▼自由吟 桃沢健介 選

ヘリ落ちてネジと心に緩みある 久保ひろし

元気だよ元気で薬のんです 市沢 照子

軸吟：政争とメダル熱狂ビョン五輪

仲間祝福され 1号 ゆめあるてで結婚披露宴



春の陽気となった三月四日大安吉日に、交流学習センターゆめあるての大ホールで結婚披露宴が行われました。



ゆめあるて披露宴の第一号を飾ったのは、豊丘村の地域おこし協力隊員として平成二十七年から活躍している佐藤葉子さんです。ご主人の山下研一さんは大阪の出身で、遠距離恋愛を経てこの日を迎えました。これからお二人で、豊

丘村山田地区に住むことになりました。ゆめあるてで披露宴を行うきっかけとなったのは、平成二十六年に取り壊した総合福祉センターで、実に三九七組もの結婚式や披露宴が行われたという話を多くの方から聞き、是非自分も地域の施設でやりたいと思ったのが始まりだそう

同じ地域おこし協力隊の仲間が、会場準備から当日の運営まで企画してくれ、手作り感たつぷりのアットホームな披露宴が開催されました。

公民館冬季レク ちよつとそこまでの感覚で 囲碁ボールを楽しむ



冬季レクリエーション大会が二月十一日に開かれ「囲碁ボール大会」を楽しんだ。囲碁ボールは比較的狭い場所でもゲームができるため、今年は会場を体育館からゆめあるての大ホールに変更して行なった。

俳句 短歌

伴句 短歌

碓部セツ子 田中 静 片桐 洋子 三島 保子 下平 玲子 三島 里子 木下 真水 松岡 照子 宮下 公 宮下 純子 丸山 時子 林 恵美子 北原 昭子

〈短歌会 夢あるて〉

思い出す筆で書きたる蟹櫃の札貼りつけて節分迎へ 松尾ヒサコ

老齢のはは肺炎で入院す声かけると眼の力まず 松下 泰見

如月の稲田に群れる渡り鳥飛び立つ羽音冴えかえりたり 福澤貴美恵

本屋にてつり銭渡す女性の手痛いたしい程あかぎれのあり 大原真由美

たちまちに熟柿食べつくし棕鳥は朱の糞残し群れて飛び去る 筒井 恵子

豪雪のテレビに思うその昔福井に旅した父は帰らず 壬生 千春

凍てし夜部屋に入れるを忘れたり精根尽きる「金の生る木」は 大倉 知江

夜勤終え帰る頃かと時計見て昨夜の大雪に息子を思う 北澤 秀子

沈む日に寂れる心一抹の自負を持ちいるしばしの時を 毛涯百合子

大伴家持のいやけ吉事とふ六つの花 白き魔物は北陸襲ふ 福澤 亀人